

〔倭訓栞^{中編十三}〕たしむ。嗜をよめり。^{○中略}俗に好物に祟なしといふ間情偶奇に平生愛食之物

即可養身と見えたり。

〔伊呂波字類抄^{疊字}〕嗜欲

〔書言字考節用集^{九言辭}〕嗜欲シヨクホウ蔽ホウ明山メイサン嗜欲シヨク在外則明所蔽在外則明所蔽矣矣。

〔慎思錄^二〕嗜之一字人情之所不免而嗜而不止者乃傷財亡身之基也看其所嗜之淺深其禍之細大緩急可知也。

〔類聚名物考^{人事一}〕嗜好

凡そ人の心の好む所各同じからず猶面の人々同じからざるが如しされば世の人の耽著のおもむき敢て諫るにあらざる歟古人の辭にも晝短苦夜長何不秉燭遊といへるは賞翫に耽るものなり又は百年三萬六千日一日須傾三百杯といへるは麴蘗に耽る者なり或は野客吟殘半夜燈とは詩賦に耽るものなり長夏惟消一局棋とは博奕に耽るものならずやまた和歌にもなかなか戀に死なずば桑子にぞといへるは好色の道に耽るものなり。^{○下略}

〔めのとのさうし〕ものを御すき候と申事により候びは琴ごすぐろくかい花もみちなどにすきたるはよしまたわらはにすきて愛し給ひし人もありされども寛平のみかどのこうきうはつねに歌合に御すき候て今にのこり候かやうのやさしき御事さる御事にて候誰もやさしきすぢにいはれさせ給へるぞその御歌ぐちいかゞぞなど申傳へ候なりそうじて物を御すき候はばいちご御すき候へみやうもくにへたの物すきといふ事ありされどもふかくこゝろにいれられ候はゞめでたかるべしなにとやらんひとさかり御すき候て末もとをらぬは見にくし一かうぐちむちにはをとる候とこそおもひ候へ昔人もさこそは申をきさぶらひし也。

〔秦山集^{雜著}〕我國愛櫻花西土愛牡丹我國嗜鶴西土嗜牛兩國習尚不同多類此。